



# 丸山千代女史を語る

西窓學園 牧 賢 一

最近櫻楓會託兒所の丸山先生から左の如き挨拶狀が各方面に發せられた。

「夏も間近かになりまして御一統様にはいよいよ御機嫌美はしくおられますこと、謹んで御悦び申し上げます。

私儀昨今特に疲勞甚しく大切な託兒所の仕事を果します上に思ふ程の働きも致しかれる様になりましたので、洵に残念ながら此の度職を退かせていたゞくことになりました。

元來、力も修業も足らず其の上我儘者の私を多年厚き御心も御いつくしみ御導き下さいましたこと今新しく心に覺え感謝の氣持は筆紙に盡し得ぬ程で御座います。茲に改めて深く御禮申し上げます。

尙、退職に當り井上會長他皆様の御心厚き御計らひによりまして菓鴨に於ける現在西窓學園が社會事業を營みつゝあります舊櫻楓會託兒所の建物を頂戴致すことになりました。之はもと昭憲皇太后陛下葬場殿便殿の一部を保育事業獎勵の御思召によ

り櫻楓會に下賜されて出來ました由緒あるものであり又私が長くそこに働かせていたゞきました思出深い場所御座いますから、まことに此の上ない光榮で御座います。従つて一日も速かに健康を恢復致し、今後は西窓學園の同人達に伍して及ばぬながら幼兒保育事業のために手傳はせていたゞくと共に、傍ら聾啞婦人の職業教育に獻身致し度いと存じて居ります故、何卒相變りませす一層の御指導と御援助を賜はり度く伏して御願ひ申上ぐる次第でございます。

筆末ながら御自愛遊ばしますよう祈り上げます。  
先は右略儀ながら取敢へず手紙を以つて御禮旁々御挨拶まで申し上げます。

昭和八年六月

丸山 千代

我が國の幼兒保育一殊に民間託兒事業の實踐的分野に於

ける恩人として長く斯界に知られて来た櫻楓會託兒所の丸山千代先生が去る四月限り櫻楓會を辭められたことは、一部に於いては豫ねて此の事あるを豫期してゐたことではあるが、多くの保育及び社會事業關係者のみならず、一般に先生を識る心ある人達を驚かせたこと共に誰も哀惜して已まないところである。然し先生の此の度の辭任は、其の挨拶状にもある通り決して保育事業或は社會事業からの隱退を意味しない。失はれた健康を取り戻し一身上の生活を整理した上は再び、恐らく捲土重來の意氣と熱意を以つて其

の與へられた使命のために餘生を擲つて働かれることであらうと思ふ。幼な兒のために、貧しき者のために、不幸なる者のために、先生は其の心身を捧げなければならぬ稗なる焰を性格的に燃されてゐるし、又今此の苦しめる下積みの社會が先生の無爲なる隱退を許しては置かないであらう。が先生が一先づ從來の個人的社會的諸關係を清算し新しき途を拓くために櫻楓會を辭せられた時に當つて、本誌の編輯者は筆者に對し「丸山先生を語る」ことを求められた。筆者は十年來先生を第二の母とも師とも仰いで先生の

御仕事の驥尾に附いて歩んで来た關係から、或る點に於いてはよく先生を知つてゐると言へるのであるが、然し反つて餘りに近くるために果してよく先生の全貌を掴み得るかどうか頗る疑はしいし、而かも現在尙ほ身近かにゐられる先生を縦横に語ることは些か面はゆく差し障る方面もあり、先生も亦お困りのことと思はれるので、茲には先生の新しき生涯の門出を幸多かれと祈りつゝ、其の片鱗を語るこことよつて責めを塞げさせて頂きたいと思ふのである。

\*

先生は明治二十年五月米澤市に丸山孝一郎氏の三女として生まれた。家は代々上杉家の家臣として祖父の代まで米澤の町奉行を勤めてゐた。父孝一郎氏は名望家として知られた人格者で廣く實業界に活躍され曾つては國會に議席を占められたこともあつたが、明治四十五年先生が二十六歳の時一物の財産も残さずに病没された。

先生は米澤高女を卒へるや父の贊意を得て上京し日本女子大學校教育部第一部(博物專攻)に入學され明治四十二年二十三歳にして卒業、當時父の社長として經營された上

杉家の模範工場―米澤製絲株式會社に工女取締りとして勤務され、父上の意を受けて大いに工女の生活改善に努め、殊に食餌の改良に盡すところあり、其の信望を集めた。其の間或る事件から工女を指導してストライキを起こさせたと言ふようなエピソードもあるが、二十六歳の時、當時東京に在つて病篤かつた父上を看護するため上京して其の他界に逢ひ再び郷里米澤に歸つた。然るに其の時偶々女子大櫻楓會は時勢の風潮に刺戟されて勞働階級のための託兒所事業を開設せんとして計畫を進め、其の主任者を物色中であつたが、白羽の矢は先生に當てられた。交渉を受けた先生は其の任に非ずとして固辭してやまず謝絶するために上京したが、先輩知友の懇請遂にもだし難く意を決して其の任に就くことを承諾された。時に大正二年先生が二十七歳のこゝまである。此の時先生が何故かくも託兒事業につくことを辭退されたのか、それは先生の御姉妹の中にお氣の毒な聾啞の方があり是非一生を聾啞教育のために盡したいと私かに期してゐられたからである、さ何日かもらされたこゝがある。

叔、愈々託兒事業に働く決心をされた先生は其の適當なる場所を得るこゝに苦しまなければならなかつた。當時世間は未だ託兒事業の何であるかを知らなかつた頃であるから汚い貧乏人の子供達を集めるさ聞いたゞけで土地も建物も貸してくれるものは無かつた。それに、貧しい幼な兒達にはさうしても充分な日光さ空氣のある出来るだけ廣い場所を、と言ふ先生の主張は一層場所の入手を困難にした。然し、漸く小石川久堅町の裏長屋に二軒を借り受けて之を打抜き假りの託兒所として、さもかくも其の年の六月に一人の助手さ二人で仕事を始められたのであるが、其の廣さは六疊一間に四疊半さ三疊。俄然近隣の要求に投じた此の仕事は大いに歓迎され忽ち子供の數は増し、先生達は晝食も鹽ふりかけてかつこむ程の忙さになつた。そこで間もなく先生は其の前側の長屋に六疊さ三疊の一軒を借りて住居さし、先年他界された御母堂保濃子<sup>ホノノ</sup>刀自を呼びその温き協力さ激勵の下に、其の奉仕さ苦難の戦ひを續けるこゝになつたのである。後大正四年、昭憲皇太后陛下葬場殿便殿の下賜を受けて、現在西窓學園のある巢鴨に託兒所を新築、之

に移轉してから後も、内に外に常に絶えざる苦しみに對して先生がよく今日まで耐えるこの出來たのは、一重に聖者の如き神の如き其の御母様の深い理解と愛と勵ましさに依るものであつた。斯くて櫻楓會託兒所は次第に世の注目惹くようになり後に出來るものゝ模範として學ばれるようになつたのである。大正六年東都大水害に際しては不健康な體をおしてモンペイ姿に身を固めて飛び廻り災害地の各所に臨時託兒所を開いたが、之が動機となつて大正八年日暮里の地區に櫻楓會第二託兒所が開設され其の主任を兼ねるこゝになつた。又大正十二年關東大震災の後に櫻楓會は上野公園のバラック内に臨時食堂を設け、避難民の子供達に給食をし授産場を開設する等色々仕事を興したが先生は之の中心となつて働かれた。其の他震災に父母を失つた幼兒達を託兒所に收容して其の世話に寢食を忘れた。

大正七八年頃から先生は、託兒所は單なる託兒事業のみに終始すべきではない、其の近隣家庭のために、其の出身者のために、出來るだけの幸福を圖らなければならぬことを考へられ、仕事を次第に隣保事業として働かせることとし、

殊に近所の青年女子のためには夜學校を開設して其の教育に當つたが、震災後は更に之を男女青年の夜學とし、又貧しい小學兒童のために圖書室を設け子供會を開き復習會を始め毎夜集めて學校の豫習復習を指導する傍ら其の精神教育に力を盡し、託兒所幼兒が成長して小學校に上り更に實社會に出て働くようになるまで一貫して世話が出來るようになつた。其の希望を達する一つの方法として、篤志家を集めて託兒所出身幼兒を各數人宛割當て其の將來一切の相談相手、指導者となつてくれる様に依頼し、所謂ビッグ・ブラザース、ビッグ・シスターズのシステムを作つたが、之は不幸にして成功しなかつた。

\*

丸山先生は理論の人ではない、どこまでも實行の人だ。其の天才的エイチな叡智の閃きによつて常に新しい方法を考へ、よしと信じたことは如何なる困難を克服しても必らず之を實現しなければやまない。かねて裏長屋の子供達を其の家族を田舎の自然に遊ばせたい、其のために郊外に畑でも借

りて毎日曜日连接到れ行き度いよよく話してゐられたが、昭和二年には多摩川の河畔に西窓洞名付けた建物を作り、週末保養や夏期學校のために使用し、社會事業團體のキャンピング・ハウスに先鞭を付けた。各兒童保護團體の夏期轉住やキャンプ生活が旺んに行はれるようになったのは其の後のことである。

此の時分までに、先生の人格を慕ひ其の隣保事業のお手伝ひをしたい余暇を捧げて無給で働くために集まつて來た男女青年の数は約三十名近くに達してゐた。期せずしてボランティアを本位とするセツルメントの精神を具現してゐたわけであるが、此の若人達のグループ西窓會が後の先生を櫻楓會の板狭みに苦しめることにならうとは誰も氣付かなかつたのである。詳しいことを云ふのははゞかるが、昭和三年櫻楓會が種々な内部的理由によつて巢鴨託兒所の閉鎖を宣言した時、此の純真なる熱血のグループは地區の實情を見て閉鎖に反對し遂には自分達だけでも之を續けて經營したいと願ひ出た。もこより櫻楓會は之を容れるべくもなく若人達はやむを得ず建物に立籠つて仕事に當つ

たのであるが、事業存続論を正しいと信じた先生は陰に陽に西窓會と櫻楓會との間に入つて青年達の希望貫徹のために盡力された。櫻楓會側からは恰も國で言ふ賣國奴かの如き非難と叱責を受けながら今日まで五年間絶えず正しきを説いて退かなかつた。其の先生の苦惱と不退轉の精神は思ふだに我々の泪である。

\*

人に知られた託兒事業の丸山、櫻楓會の丸山は、其の地味な實行的風格と傾倒的な犠牲的精神によつて我が社會事業界に見えざる大きな足跡を印して來た人であることに、其の働かれた地區に於いては策も裏表もない直情的な人格者としてお神さん達から其の敬愛を一身に集め而かも夫れを全く意識しない人である。先生位自身涙なくしては聞けない様な苦しい人生を渡つて來、又日夜苦しむ人達の中に起き伏し、又仕事の性質上廣い社會的な交渉を持ち、所謂上流の人達とも接觸してゐながら、其の性格の上に、其の心情の上に、又其の舉措動作の上に、何等の影響をも受けず常に本質のまゝである先生の様な人は少いであら

う。先生の態度言動には絶體に政策的な掛引きや社交的な上手さがない。其のために反つて人の誤解を受けたり失敗をするこゝも決して少くない。

先生の人柄を一言にして言へば、良い意味での「野人」である。先生には何の粉飾もない。そして永遠に洗練されるこゝなき粗野な自然のまゝの、常に自分の本心を開け放しにした真裸の人間である。持病の腎臓病に毎も顔色の悪い先生の太い眉毛、引きしまつた脣、廣い前額、不愛想な表情、如何にも人當りの荒い取りつき難い感じのする人ではあるが、若し此方が人の心の琴線に共鳴し得る純真さ、聡明さを持つてゐる人であつたら、誰でも一度口を聞いただけで何處か心惹かれて其の懷に飛び込んで行かないではゐられなくなると言つたような人である。

\*

汚い託兒所の板の間に座つて叮嚀にお神さん達の話相手になつてゐる先生の粗服姿は又其のまゝ變らずに貴顯高官の應接間にも現はれる。金殿にあつても茅屋にあつても變るこゝなき人間と言つたベスターロッチの信念を私は先生

の心の裡に見る。先生らしくしない先生は、お神さんでも、子供でも、私達若い者でも、皆自分と同じ様なレベルに置いて語り意見を聴いてゐる。上から下への觀念を全く持つてゐない人だ。

又、初めて紹介されたばかりの人から泣きつかれて自分の月給を前借して貸して了ふ先生は物慾に恬淡な人である。共に涙もろい童心の人だ。嬉しいこゝがあれば無しように喜び、歪曲に對しては假借なく争ひ、千萬人も我行かんの意氣を示す先生は、時に一人深夜自分の缺點を省みて其の事業に適しないこゝを嘆き泣いてゐられる。靜かなる所を好み自然に陶醉するこゝを喜ぶ先生には祈りがある。

或る社會事業の先輩は「丸山さんこそ、社會事業家としての最後の人だ」と言つたこゝがある。最も社會事業家らしくなくて而かも最も社會事業に適つた人と言ふのであらう。先生は「母を想ふ時、毎も、一心巖をも透す、と言つた母の言が忘れられません」と言はれる。先生のお父様は早くから婦人の經濟的獨立を説かれ働け、働け、主義を教へ、先生に對しては特に自由な自治的な教育を施された。二十歳

前の若い娘に一人で旅をすることをすゝめ旅宿にも泊めたし、又夜十二時一時に他所から歸つても何ともかめなかつたと言ふ。先生は其の亡き御両親を想ふ時、萬腔の尊敬と感謝を以つて語られる。其處にこそ今日の先生が在るのではあるまいか。又若き日の先生を感動せしめた二つの魂、成瀬前女子大校長と、女子大時代訓育を受けた聖公會のウォーズオース女史(文豪ウォズウオースの縁戚)のあることも先生の口から屢々語られる。

\*

先生は疲れた〜云ひながら櫻楓會を辭めて休む間もなく、五月下旬から東京府が東京府下に始めて開いた五ヶ所の農繁託兒所の指導に當り病軀を鞭つて交通不自由な農村を馳け巡つてゐる。恐らく今後も仕事が生を休ませないであらう。西窓學園に於ける幼兒保育事業の完成(ナースリー・スクール化)と聾啞婦人の職業教育に先生年來の希望を達せられる様、一日も速かに先生の肉體を回復されることを心から祈るに共に、多くの方々が此のよき人間である丸山先生をして其の志を成さしめるよう援けて上げて

下さることを希つてやまない。

\*

社會事業界全般に於ける先生の功績、其の豊富な奇言奇行、語ることは盡きない。茲には餘りに個人的なことを書き過ぎて編輯者の意に反したのではないかと怖れる。又恐らく斯んなことを書いたことが知れたら先生の御立腹を買ふことであらうが、總てのことは筆者の責任であることを讀者は御諒承願ひ度い。(六月二十五日)

## 會告 八月號休刊

本誌八月は休刊し、九月に於て兩月號を合冊發刊することにいたします。

此の機會に於て、皆様いよ〜御健康に、よき夏をお樂しみになることを御祈り申上げます。

昭和八年七月

日本幼稚園協會